

国 語 総 合

教 科	国 語	単位数	2	学科・学年	全科 2年
使用教科書	新編 国語総合（数研出版）				
副教材等	新編 国語総合 準拠ワーク（数研出版）・常用漢字オールクリア 四訂版（尚文出版）				

「国語総合」はどんな科目？
 1年生までで学んだ上に、さらに日本語の「話す・聞く」「書く」「読む」の3つの力をつける科目です。内容的には「現代文」「古文」「漢文」の3つの分野を学ぶことによって、言語感覚を磨き、読解力・思考力・表現力を伸ばすことを目指します。国語の総合的な力をつける科目です。

「国語総合」の学習の特徴は？
 基本的には、1年生で学んだ「国語」と同じように学ぶ科目です。文章を読み登場人物の気持ちや筆者の思いを考えます。語句を調べたり漢字を覚えたりしながら文章の理解を深め、感情を込めて朗読します。名文は暗唱できると良いでしょう。また自分の思いを作文に書き表したり、意見を発表したりすることでコミュニケーション力を高めます。

「国語総合」で大切なこと（留意点）は？
 1時間1時間の授業を大切にすることです。1年生で学んだように、授業ノートは毎時間提出します。授業の内容についてのまとめと、発問に対しての自分の考えや意見は、できるだけ漢字を用い、丁寧にまとめて書くよう努めましょう。しっかり聞き、積極的に発言し、自分の言葉でノートにまとめることが大切です。また、副教材を使い自主的な学習を進め、課題の点検は忘れずに受けましょう。1年生同様、漢字テストは毎週1回程度行います。また、朗読や暗唱のテストも行います。日頃から文章に親しみ、読書や創作活動などを通して、自分の思いを言葉にすることを楽しみましょう。

1. 学習の計画（どのような内容を、どの時期に学ぶのかを含む。）

	月	学 習 内 容（単元名）	学 習 の ね ら い
1 学 期	4	評論 「ものづくり」 村山 明 唐詩 「送元二使安西」 王維 〈中間考査〉	<ul style="list-style-type: none"> ・ 評論文を読み、その読解を学ぶ。 ・ 漢詩の形式を知り、心情・情景を味わう。 ・ 沖縄の悲惨なありさまに触れ、登場人物の心情を考える。 ・ 歌物語を朗読し、状況と心情を読み味わい、さらに、和歌を暗唱する。
	5	小説 「沖縄の手記から」 田宮虎彦 〈期末考査〉	
	6	物語と日記 「伊勢物語（筒井筒）」	
	7		
2 学 期	9	史伝 「水魚の交わり（十八史略）」 〈中間考査〉	<ul style="list-style-type: none"> ・ 登場人物の生き方や考え方を読み取り、史話のおもしろさを味わう。 ・ 小説を読み味わい、深く考える力を養う。 ・ 和歌の美しさを知り、暗唱する。
	10	小説 「羅生門」 芥川龍之介 〈期末考査〉	
	11		
	12	和歌 「万葉集・古今和歌集・新古今和歌集」	
3 学 期	1	百人一首かるた取り	<ul style="list-style-type: none"> ・ かるた取りを楽しみながら古典に親しむ。 ・ 評論文に慣れ、ものの見方、考え方を広げる。
	2	評論 「『わらしべ長者』の経済学」 梶井厚志 〈学年末考査〉	

2. 評価の観点・方法（及び年間の評定）

評価は、次の5つの観点から行います。

関心・意欲・態度	国語で伝え合う力を進んで高めるとともに、言語文化に対する関心を深め、国語を尊重してその向上を図ろうとする。
話す・聞く能力	目的や場に応じて効果的に話し、的確に聞き取ったり話し合ったりして、自分の考えをまとめ、深めている。
書く能力	相手や目的、意図に応じた適切な表現による文章を書き、自分の考えをまとめ、深めている。
読む能力	文章を的確に読み取ったり、目的に応じて幅広く読んだりして、自分の考えを深め、発展させている。
知識・理解	伝統的な言語文化及び言葉の特徴やきまり、漢字などについて理解し、知識を身につけている。

このため、評価は、具体的には次のものを対象とします。

評価方法
年5回の定期考査
長期休業中に出題される課題および休業あけの宿題テスト
学習への参加状況（出席状況、授業中の取り組み、問題演習への取り組み等） ノートのまとめ方 授業で活用するプリント、小テスト、朗読・暗唱テスト等への取り組み

1年間の評定は、1学期・2学期・3学期の年間を通じて、上記の内容を総合的に判断して決定します。

3. 特に強調しておきたい点（留意すべき点・担当者からのメッセージを含む。）

国語はとにかく授業第一です。3つの力をつけるために集中して毎時間の課題を確実にこなして下さい。忘れ物はしないことです。教科書は必ず自分のものを使い、全て正しく音読できるようになりましょう。また積極的に暗誦することで、「話す」力がつきます。ノートは毎時間提出します。発問の答えを自分で作文し、まとめるよう工夫しましょう。「書く」力は続けることで伸びます。

また副教材は積極的に活用しましょう。漢字練習は授業でもやりますが、家庭学習でも取り組み、年2回実施される漢字能力検定に積極的に挑戦しましょう。目標があるとやる気が出て力もつきます。進路実現に向けて具体的な取り組みを始めましょう。